

オホーツクの風

平成31年3月27日(水) 0023号

発行所

北見赤十字病院の
明日を考え支援する会

事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16
Tel 0157-61-0684

院長 一人一人に授与 会員 北見での父母役で参列 研修医式 研修

平成31年3月15日午前9時から平成30年北見赤十字病院初期臨床研修医・修了証書授与式が同院大会議室（北館3階）で挙行された。病院の役員や管理職そして各部門の皆さんが参列して行われた。

今年度修了する7名の臨床研修医に吉田院長から一人一人に修了証書が授与された。

授与の後、吉田院長は臨床研修の修了おめでとうと祝意を述べ、皆さんには社会的責任があり、また人として期待されています、自分を高める勉強を続けて欲しいと結んだ。

プログラム責任者の荒川副院長は患者そして地域に寄り添い、研修で培った仲



前期研修を修了する医師のそれぞれに明日への希望と幸あれ

間を大切に頑張っていて欲しいと激励した。修了臨床研修医を代表し、笹井研修医が2年間学んだお礼のことばを述べた。

毎年夏に病院の臨床研修医を招き、焼き肉イベント・北見

での思い出づくりの集いを野付牛公園で開いています。焼き肉と地ビールで炭焼きコンロを囲んで若い先生方と楽しく交歓した会員が修了式に参列した。

式典が終わった後、会員は修了臨床研修医の一人一人に北見での父母役としてのお祝いの言葉を掛けた。

修了研修医の内3名が北見日赤に勤務

北見赤十字病院の明日を考え支援する会
平成31年度第10回 通常総会開催

平成31年3月4日午後1時15分より、北見赤十字病院大会議室をお借りして平成31年度通常総会を開催。

病院の吉田院長・関原総務課長・高松総務係長をお招き



学び舎に感謝して修了証書を拝受

し、13名の会員が出席して行われた。代表が開会を宣言、挨拶の後、来賓の吉田院長を紹介。いつもご支援を戴き嬉しく思いますと挨拶は始まり、先日、北海道新聞の取材を

受けた時、今まで何が一番心に残っていますか？と問われ、11年前に内科医が大量退職したことが発端になりこの会が出来たこともそのひとつです。

また研修医の焼き肉イベントは院内でも評判が良く、研修医の募集の時、病院の特色の一つとして活用しています。

お陰様で病院の経営も安定し、手術用器械「ダヴィンチ」を導入することにな



第10回通常総会で吉田院長が来賓挨拶

りました、これで最先端の治療も出来るようになります。近日中にアトリウムでお披露目をする予定です。

市民の客観的助言は病院の励みになります、我々だけでは地域に根付いた病院づくりは難しく、今後ともご支援を戴きたいと来賓の挨拶を結んだ。

引き続き、議案の審議に入る。平成30年度事業報告ほか全ての議案を審議可決。今年度から事務局次長の職制が新設され、新任の森實結佳さんが挨拶をした。

本総会の始まりの15分間を使い、今年、11月に予定されている第2回ブラックジャックセミナーのプレゼンテーションをジョンソン・エンド・ジョンソンの担当者が行った。通常総会は予定通り午後2時30分に終了した。

話し合いましたよー！

「大切に生きてきたこと生きがいになったこと」

平成31年度
総会記念
講演会

平成31年3月4日午後3時から北見赤十字病院の大会議室(北館3階)で北見赤十字病院の循環器内科部長・齋藤高彦先生を講師に迎え、見出しの演題で平成31年度総会記念講演会を開催した。

齋藤先生の略歴は▽1993年、大阪大学医学部を卒業、北大付属病院・循環器内科に勤務▽2001年、北海道大学大学院医学研究科博士課程を卒業、函館中央病院内科医長に就任▽2008年、北見赤十字病院循環器内科部長に招聘され現在に至る

また日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本心臓リハビリテーション



会場は70名ほどの聴衆で埋まり、盛会であった

学会指導士、日本プライマリ・ケア連合学会指導医などの資格を有している。人は病気になるとうるさく、身体と心につらさを感じます。元気なこ

ろから患者・家族・医療者がこれからのことを話し合っておいた方が良く、先生は語りはじめた。大切に生きてきたこと、生きがいとなっ

ていること、心配なこと、して欲しいこと、して欲しくないこと、どのようにごしたいか、どのような治療を望むか、など一人一人その考えは違い、それぞれに事情があります。元気なころから患者・家族・医療者がこれからのことを話し合い決めておくことが大切です。

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)、愛称・人生会議は前記の考え方に基づいて作られたものです。意識がなくなったら、家族などが代わりに治療を選ぶことになりす。

あらかじめ、あなたの気持ちを一番わかってくれる人に話すことが大事です。このことをお



ユーモアを交えて和やかに話す齋藤講師

そかにすると家族がためらいや後悔をしまつてつらい思いをします。

聞いて貰いたい人にあなたの本音を是非話をしてみて下さい。

希望や思いはその時々で変わります。医療者や介護職の方と繰り返し話し合う必要があります。でも、やっぱり、死ぬ時のことは考えたくないと思うのが私たちの常です。

人生会議(ACPの愛称)やエンディングノートの図を示し、最期の時のことを、無理して考えた

り、話しをしたりする必要はありません。最初は、話したい相手に、話したい範囲の内容でかまいませんと説明し、最後に聴講のお礼を述べ講演を終了した。

ACPは終末期医療の時のことと思っていたので、私たちに重く避けたい話題です。講師はソフトに解りやすく負担にならないように話をして下さった。

日本人の平均余命は女性が87才、男性が81才で、当方はその範囲に近づいています、大変有意義な内容であった。

『地域医療や改築問題を：考えよう、有志が北見赤十字病院「支援する会」、16日発足「若い世代に参加」との見出しの平成21年12月2日付け道新のスクラップが手元に在ります。この報道で谷川発起人代表に連絡したのが会との出会いです。

12月16日、発足準備の会合を経て、平成22年1月29日、市民会館で発足総会が開かれた。この時、病院の村田千恵子管理栄養士が講話を行って下さったのが講演会の始まりです。

途中の1回だけの空白も数えると今年で10回目を迎え、感慨無量です。

4月1日、新元号が発表になります。会の積み重ねた歴史を振り返り、新たな局面に取り組みます。(逢坂)

